

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

小美玉市まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

茨城県小美玉市

3 地域再生計画の区域

茨城県小美玉市の全域

4 地域再生計画の目標

本市の人口は2000年の53,367人をピークに減少しており、2015年においては50,911人(2015年国勢調査結果)まで落ち込んでいる。住民基本台帳によると令和3年5月1日現在では49,822人となっている。国立社会保障・人口問題研究所によると、2040年には39,507人となり、2015年比で総人口が約78%となる見込みである。年齢3区分別人口で見ると、生産年齢人口は2000年の35,906人をピークに減少傾向が続き、2015年には30,902人となっている。また年少人口も1980年から継続的に減少が続き、2015年には6,507人となっている。一方、老年人口は、継続的に増加が続き、特に2010年から2015年にかけては4.4%と急速に増加し、2015年には13,435人となっている。

本市の社会動態は、2008年以降は転出者の減少が続いていたが、2010年以降再び増加している。転入者は2012年以降、おおむね2000人前後で推移している。2012年、2013年、2016年に転入超過になっているが連続性はなく、継続して転入増の傾向があるとは言えない。2019年には転入数1987人、転出数1983人で4人の社会増となっている。

本市の自然動態は、2002年以前は出生者数が死亡者数を上回る状況が続いていた。その後、出生者数と死亡者数が拮抗する時期が続き、2007年以降は、死亡者が出生者数を上回る自然減が続いており、自然減がより大きくなる傾向が続いている。2019年には出生数315人、死亡数626人で311人の自然減となっている。合計特殊出生率については、2013年～2017年で1.48と県平均値1.46を上回っているものの2008年～

2012 年の 1.51 から 0.3 減少している。(人口動態保健所・市町村別統計)

国勢調査における産業別の就業者構成比は、2015年では第一次産業が11.4%、第二次産業が28.8%、第三次産業が56.2%となっている。農業は、県内2位の産出額を有し、なかでも、鶏卵産出額において全国1位を誇り、(平成30年 市町村別農業産出額(推計))当市の特徴を表す産業となっているものの、就業者の比率は1990年から15年間で半減し、次世代の農業を担う若年層の人材確保が課題となっている。

人口減少や高齢化が進展すると、地域経済の縮小、税収の減少、社会保障の増加が懸念されるだけでなく、地域コミュニティの担い手が不足し共助機能の低下を招くことになる。

こうした課題に対応するため、次の事項を基本目標に掲げ、本市の活性化と移住・定住の促進、人口減少対策に取り組む。

- ・基本目標 1 恋も子育てもしたくなるまちになる
- ・基本目標 2 地域の宝を見つけ、磨き、光をあてるまちになる
- ・基本目標 3 わく work(ワーク)がとまらないまちになる
- ・基本目標 4 スーッと、ず〜っと住めるまちになる

【数値目標】

5-2の ①に掲げ る事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2024年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	平均初婚年齢 (男)	30.0歳	28歳	基本目標 1
	平均初婚年齢 (女)	28.3歳	25歳	
	合計特殊出生率	1.51	1.8	
	結婚を希望しない若者の割合 (アンケート調査)	12.9%(市民) 4.9%(高校生)	10.0%	
	小美玉市で子育てをしていき たい(アンケート調査)	61.9%	70.0%	
イ	平日・休日滞在人口 (滞在人口/国勢調査人口)(RESAS)	平日0.99 休日0.97	平日0.99 休日1.00	基本目標 2
	市イベント関連交流人口 (ふるさとふれあい祭り・産業祭等 のイベント、空港、そ・ら・ら、文 化ホール等の来場者数)	80.2万人	100万人	
ウ	市内総生産	2,249億円	2,249億円	基本目標 3
	就業者数(20～40歳代)	18,098人	18,098人	
	市内に住んで市内外で就職し たい割合 (高校生アンケート調査)	46.7%	50.0%	
エ	社会移動率	-0.35%	-0.18%	基本目標 4
	生産年齢人口純移動数	-266 人	-200 人	
	小美玉市に愛着を持っている 市民の割合 (アンケート調査)	56.0%	60.0%	
	今後も今のお住まいに継続し て住む割合 (アンケート調査)	53.4%	55.0%	

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2 のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する
特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

小美玉市まち・ひと・しごと創生推進事業

ア 恋も子育てもしたくなるまちになる事業

イ 地域の宝を見つけ、磨き、光をあてるまちになる事業

ウ わく work(ワーク)がとまらないまちになる事業

エ スーッと、ず〜っと住めるまちになる事業

② 事業の内容

ア 恋も子育てもしたくなるまちになる事業

結婚・出産を前にした若い世代の不安を軽減し、若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるため、出会いから結婚までを支援するほか、誰もが子育てしやすい環境の整備を進める。

【具体的な事業】

- ・自然な出会い創出事業
- ・ライフデザイン事業
- ・ママパパ・相談事業
- ・ママパパ・リフレッシュ事業
- ・待機児童ゼロ継続事業
- ・出産子育て情報アプリ利用促進事業
- ・出産祝い事業
- ・不妊治療費助成事業
- ・医療費助成事業 等

イ 地域の宝を見つけ、磨き、光をあてるまちになる事業

茨城空港、霞ヶ浦、ヨーグルト、農産物、歴史・文化など本市の魅力を再発見し、その価値を高め魅力を発信するとともに、経済的な自立を目指し、多様な財源の確保を図る。

【具体的な事業】

- ・空の交流エリア活性化事業
- ・陸の交流エリア活性化事業
- ・水の交流エリア活性化事業
- ・ヨーグルトブランドアップ事業
- ・農産物ブランドアップ推進事業
- ・ふるさと納税の推進
- ・クラウドファンディング活用推進事業 等

ウ わく work(ワーク)がとまらないまちになる事業

時代に伴って変化する働くスタイルの多様化に対応した職場づくりを目指し、就職を機に市外へ転出する若者や、子育てを機に離職する女性が安心して働ける場・働き方などを支援する。

【具体的な事業】

- ・新たな「働き方」研究実践事業
- ・企業誘致事業
- ・地域の仕事見える化事業
- ・女性活躍推進事業
- ・先進技術導入事業
- ・職員採用試験プロモーション事業 等

エ スーッと、ず〜っと住めるまちになる事業

本市に若い世代の移住・定住を促進するため、より多くの市民が、まちへ愛着と誇りを育むことができる環境の整備と人材の育成に取り組む。

【具体的な事業】

- ・土いじりする暮らし支援事業

- ・小商いする暮らし支援事業
- ・シェアリングエコノミー支援事業
- ・移住促進住宅取得助成事業
- ・移住者向けコミュニティ情報発信事業
- ・空き家活用事業
- ・おみたまくらし体験事業
- ・小美玉市版デジタルコミュニケーション事業
- ・地域の仕事との良き出会い事業
- ・学校におけるシティープロモーション事業
- ・高校・大学との連携事業
- ・ダイヤモンドシティ・プロモーション事業
- ・ダイヤモンドシティ・ブランド活用事業 等

※なお、詳細は第2期小美玉市まち・ひと・しごと創生総合戦略のとおり。

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

1,305,280 千円（2021 年度～2024 年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

毎年度9月に外部有識者による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する。検証後速やかに小美玉市ホームページ上で公表する。

⑥ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から2025年3月31日まで

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から2025年3月31日まで